

高齢期の安心・地域での暮らしを応援します

御所野地域包括支援センターけやき

年齢を重ねても、一人暮らしになっても、治療や介護が必要になっても、できるだけ住み慣れた地域で暮らし続けたい。地域包括支援センターはそうした願いを支えるため、医療や介護だけでなく幅広い「暮らしにおける困りごとや将来の不安」にお応えする総合相談窓口です。秋田市では18カ所にセンターを設置、それぞれ社会福祉法人や医療法人にその運営を委託しています(担当課は、秋田市長寿福祉課)。

【例えば、こんなご相談…】

- 介護保険などいろんな制度があるけど、難しくてよく分からない
- 一人暮らしをしている高齢の母に、物忘れがあって心配
- いけないとは思っていても、つい家族に冷たくしてしまう
- 最近、お隣りさんを見かけなくて何だか心配
- 普段の困りごとを誰にも言えない。気持ちが沈んで毎日つらい
- 財産管理や契約ごとなど、大事なことを一人で決めるのが心配
- 今は元気だけど、将来のために病気や介護の予防を考えたい
- 病院や施設の人に言いたいことがあるけど、言いにくい
- いろんな所に相談したけど、困りごとが解決しない など…



市内18カ所のセンターは、それぞれ担当地域をもっています。社会福祉士・保健師(看護師)・主任介護支援専門員がおり、必要に応じて各専門機関等にもおつなぎできます。また、地域関係者や医療・介護等の専門職、行政など「支援関係者間の協力体制づくり」、高齢者の「介護予防・権利擁護に関するPR」にも努めています。



Q. 担当地域って？

A. ご相談の対象となる方の住所地で、担当するセンターが異なります。御所野のセンターは「御所野・四ツ小屋・御野場・仁井田・御野場新町」を担当しています。

Q. 相談にお金にかかるの？

A. 無料です。センターに来られない方はご自宅などへも訪問しています。お気軽にご相談ください。

Q. 相談したことを誰にも知られたくないけど？

A. ご安心ください。センターは守秘義務を負っていて、事前に同意を得ない限り第三者等へお伝えすることはありません。

●ご相談・お問い合わせは…

御所野地域包括支援センターけやき 電話(826)0651/代表
〒010-1412 秋田市御所野下堤五丁目1番5号(中央シルバーエリア内)

知ってる？「地域包括ケア」

そもそもセンター名にもある「地域包括」ってなんだろう？私たちにどんなカンケイがあるの？そう思っているあなたにこそ知って欲しい…。ここでなるべく分かりやすくお伝えします。(御所野地域包括支援センター けやき)



【これからのこと】

●日本は本格的な人口減少時代に入りました。15歳以下の子供世代は当面増える見込みがなく、今後は2022年～2049年にかけて第1次ベビーブーマー(団塊世代)・第2次ベビーブーマー(団塊ジュニア世代)全員が75歳以上になり、働く現役世代は急速に減っていきます。今の社会保障(年金、医療、介護、福祉)制度は世代間の支え合いの側面を持っていますので、これからも人口構造や社会情勢の変化に応えうる、全ての世代にとっての「安心の維持」のためには諸制度の大幅な見直しが急がれています。

【高齢期の生活の質】

●高齢期には慢性的な病気・急な体調変化を抱えがちです。仮に病気の完治が難しくても、加齢に伴う状態変化はあっても、その人の「心身の機能・活動・参加」に対して「悪化の予防・状態の改善や回復」が図られれば、生活や人生の質を高め、住み慣れた地域での暮らしを続けられるかもしれません。そもそも望まない転居・早々の施設入所・退院できるのに長引かせてしまう入院生活は、残念ながら私たちの人生や暮らしから「できること・したいこと」を奪ってしまうリスクもあります。

【多職種の協力体制】

●一人暮らしでも、療養や介護が必要になっても、地域での生活を「安心して選択する」には何が必要になるでしょう。国は将来像も見据え、医療や介護等の専門職だけでなく、私たち自身・町内など近隣・地域の担い手(スーパーや金融機関など生活に欠かせない機関・人も含み)みんなが参加し合い、地域で必要とされる支援やサービスが柔軟に組み合わせられる「協力体制」が重要だとしています。これを「**地域包括ケア**」システムと言いますが、各市町村ごとにその仕組みづくりを進めることになっています。

【私たちに求められていること】

●地域包括ケアは行政や医療・介護の保険サービスだけでは実現しませんし、高齢期だけのテーマでもありません。私たちは年齢に関係なく、病気の発症や悪化を防ぎ、活動性や社会参加も意識した「今後の暮らし方」を考える必要があります。加えて、人口減少が進む日本では住民自身が今まで以上に地域の支え手として期待されています。私たちが暮らす地域がどうなればもっと「安心・安全で住みやすい」のか、住民視点で参加・発信することも大切です。*参加のかたちは様々です。当センターにご相談下さい。